

輝かしい国内外企業誘致成果

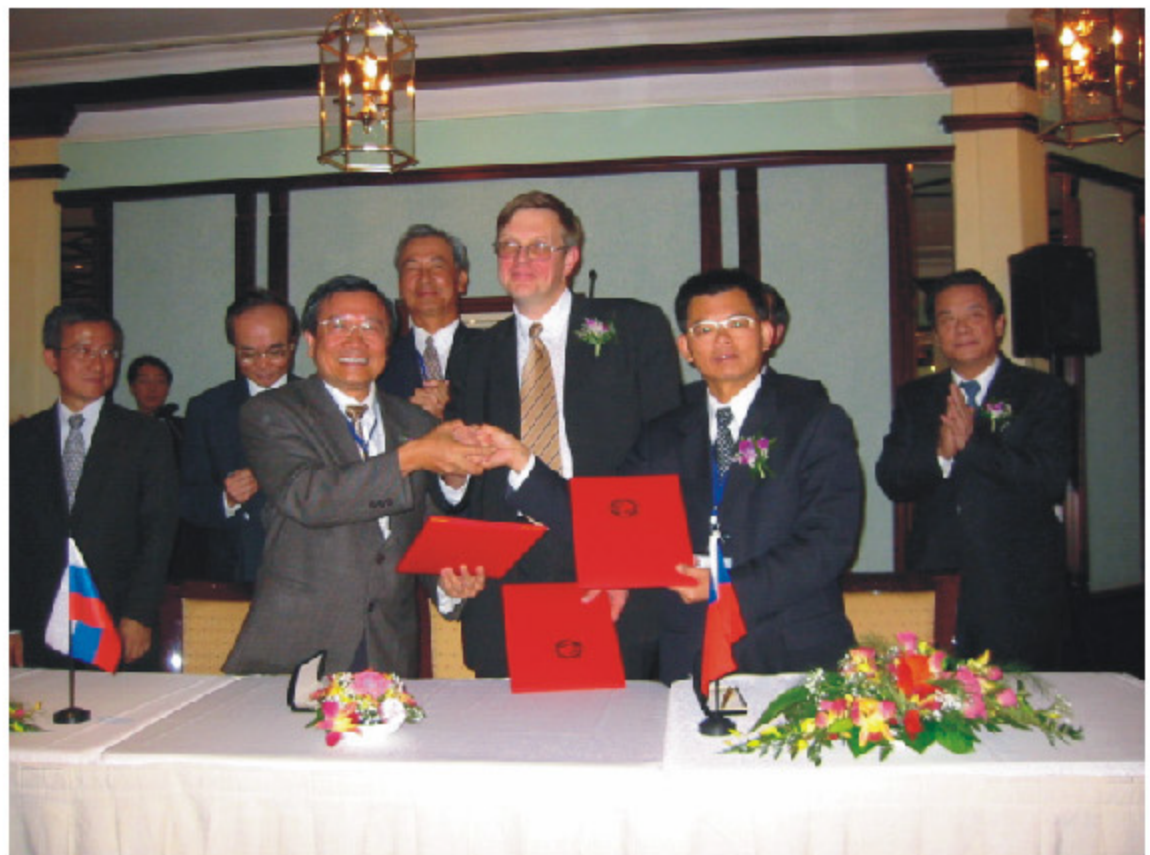
南科における企業誘致成果が更に上がり、国内外における知名度を更に上げるために、多くの国内外企業誘致展覧会に参加するだけでなく、積極的に学校にも出向き、北中南3箇所にて学校での人材勧誘活動を行い、大きな反響を呼び、南科を学校内からその地名度を広げていく草の根活動となったであろう。

海外企業誘致活動

2004年9月高雄県政府・財団法人政府機関工研院電通所、台露協会経済貿易科学技術訪問団と共に、ロシアに赴き技術招聘を行った。ロシア国家科学学院・関連部門への訪問をはじめ、台湾・ロシア双方の技術交流ネットワークの構築、更に、台湾・ロシア科学技術交流協力シンポジウムにも参加。ロシア科学園区連盟(Russian Union of Innovative - Technological Centers: RUITC)との協力契約覚書を締結し、技術資料20項目余りを台湾に持ち帰ることができ、国内企業の参考となったであろう。また、この活動によって2004年11月にロシア科学院の多くの学者の南科来訪への呼びかけに成功している。

高雄園区が国家レベルの通信情報技術センターを設立して以来、通信情報システム園区として積極的に環境を整え、ロシア訪問では、更にスイスのKista Science ParkとフィンランドのHermia Science Park等まで足を伸ばし、世界的に通信産業園区として最重要な二つの園区を訪れ、その設立経験を学ぶ。世界規模の携帯通信情報システムの中心となっているスイスのEricssonとフィンランドのNokia等企业を訪ね、それら企業の経験を活かし南科を世界的に認められる通信情報園区へと推し進めていきたい。

2004年10月18日から29日、本管理局と台南県政府はアメリカ・カナダ地区に赴き、5つの重点都市(アメリカサンフランシスコ・サンディエゴ・ダラス・セントルイスとカナダのバンクーバー)において企業園区誘致を行った。5回もの「南科-台湾シリコンバレーより手招き」企業誘致説明会と企業訪問活動を行い、多くのメディアを引きつけた。この他、アメリカ当地MedWaves-ハイテクノロジーマイクロ医療技術企業・Mediomics-たんぱく質DNA検査等2つの企業とカナダB.C(ブリティッシュ・コロンビア)省科学技術委員会とは協力契約書を締結した。更に、サンディエゴにおける企業誘致期間中では市長は代表を通して、高雄県蘇県長・本管理局戴局長と全参加者に榮譽市民証を与え、これは南科の海外における知名度を効果的に上げる事件だと言えよう。



> 本管理局とロシア科学園区連盟が、高雄県楊県長(右二)と台露協会代表団団長吳榮義院長(右四)両証人の下、協力契約覚書の締結を執り行う(9月9日)



> サンディエゴ企業誘致説明会(10月20日)

海外人材誘致活動

2004年度政府行政院によって組織された海外人材誘致訪問団は、經濟部・国科会の主催のもと、行政院林逢慶政務委員が団長を勤め、中華経済研究院によって実行を任された。各地における訪問活動は海外駐在政府機関にお願いし、11箇所もの海外科学技術団体の協力を得て実現された。国内高知名度企業43社とともに訪問団が組織され、2004年9月9日から24日アメリカのサンフランシスコ・ロサンゼルス・ダラス・シカゴ・ニューヨークと日本東京等海外科学技術人材密集都市や地域に赴き人材誘致を行った。

本管理局は国内科学園區を代表し訪問団に参加し、海外のハイテクノロジー人材に向け、国内3大科学園區の発展状況と将来目標展望について紹介した。2004年人材誘致訪問団は全部で6回「人材誘致商談会」を行った、1,850名もの海外科学技術人材を引き付け、1,150部もの海外技術人材の來台勤務意向アンケートを回収することができた。



> 行政院海外科学技術人材誘致商談会会場(9月9日至24日)



> 行政院海外科学技術人材誘致商談会(9月9日至24日)



> 行政院海外科学技術人材誘致訪問団サービスセンター(9月9日至24日)

南風再起：学校における人材誘致活動

2004年北部の台北科技大学・中部の中興大学・南部の高雄応用科技大学においてそれぞれ「南風再起」学校人材誘致活動を学校のクラブ活動のイベントと一緒に大々的に行い、約1,000人もの学生を引き付け、学生に南部での事業開拓の未来に明るい未来図を与えることができたと言えよう。



> 本管理局戴局長(右二)と出席企業代表が台北科技大学にて「南風再起」活動祝辞(12月8日)